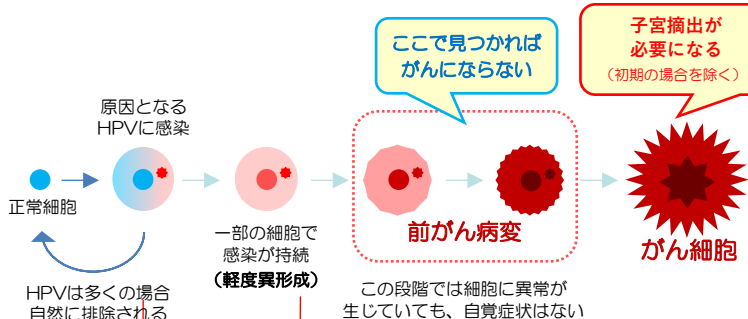


子宮頸がんを知って予防しましょう！

「自分には関係ない・・・」と思っていませんか？ あなたにも子宮頸がんリスクがあるのです。

《子宮頸がん細胞の発生メカニズム》



《若い女性に多いHPV16、18型》



HPV16、18型
＝日本の子宮頸がんの約70%

20代の子宮頸がん（Ⅰ期以上）の90%
30代の子宮頸がん（Ⅰ期以上）の76%

HPV検査

子宮頸がんを引き起こす
14種類のハイリスク型
HPV感染の有無を
調べる検査です。



HPVとは、

ヒトパピローマウィルスの略で「子宮頸がん」の原因とされるウィルスのことです。

HPVは主に性交渉によって感染し、性交渉経験がある50～80%の女性が一度は感染するといわれている、ごくありふれたウィルスです。

こんな人はぜひ受診を

- 子宮頸がん検診を2年以上受診していない
- 20～30歳代で一度も子宮頸がん検診を受診していない
- 月経時以外の出血がある
- 性交時の出血がある
- 下腹部の痛みがある
- おりものが増えた
- 経口避妊薬（ピル）の長期服用者
- 喫煙者である（であった）

今年も
受診しよう



がんになっていなくても、HPVに感染していることがわかれば、将来病変が進行したり、子宮頸がんになるかもしれないという予測が可能になります。

（ハイリスク型HPVに感染していても必ず子宮頸がんになるわけではありません。）



検査は簡単！ご自宅で検体を採取して郵送するだけです。

専用器具を使い自己採取し、
検査機関へ返送するだけ！

【採取器具】

※妊娠中の方は申込みできません。



ピストン

ストッパー

膣に入れるところ

受診後も安心

結果が有所見であった方は、必ず精密検査を受けましょう



検査機関では、受診者の方にあった病院をご紹介します。
紹介状の作成（無料）もしていますので、お気軽に検査機関にお問合わせください。

検査機関：メスブ細胞検査研究所 TEL (075)231-2230（平日10:00～16:00）メール：mail@msp-kyoto.co.jp

【注意事項】
・郵送検診は自覚症状のない方を対象にしています。すでに自覚症状や気になることがある方は医療機関をご受診ください。
・郵送検診はスクリーニング検診（一次検診）であり、検診結果は病名を診断するものではありません。「要精密、陽性」の結果が出た場合は、速やかに医療機関を受診されることをお勧めします。
・郵送検診の検査結果のみで病名を判断できるものではありません。「異常なし・陰性」の結果の方も、自覚症状や気になることがある方は医療機関を受診されることをお勧めします。